



徳島県知事賞

「税の大切さ」

太田小学校 5年 鹿耳 翼

会長賞



夏休みに母と買い物に行った時にレシートをもらいました。レシートは、合計、お預かり、おつりの下に消費税と書いてあるところがありました。母に聞くと、「商品を買った人がはらう税金だよ。」と教えてくれました。ぼくも買い物をすると必ずはらっています。税金と聞くと始め、子どもとはあまり関係のない物のように思っていたのですが、急に身近な物に感じました。

家に帰って家計簿を付けていた母が、「給料明細」を見せてくれました。所得税、住民税と書いてあり、その横にいくらはらうか書いてありました。「給料をもらった人がはらう税金」と「つるぎ町に住んでいる人がはらう税金」と教えてくれました。自分が働いてもらった給料に税金をはらったり、町に住んでいるだけで税金をはらったり、父も母もとでもたくさんの税金をはらっていると思いました。母に「いっぱいはらって、そんなみたいやな」と言うと、「その分、いっぱい返ってきてるよ。みんながいる物をみんなが同じように使えるために税金をはらってるんだよ。」と話してくれました。その後、「みんながいる物」を考えてみました。道路・カーブミラー、信号、学校、公民館と、家から学校に行くまでもたくさんの物がありました。ぼくの教科書や授業料、学校で使う水や電気のお金にも税金が使われているそうです。税金がなかったら、ぼくは生活できません。

今まで当たり前のように使っていた物も、たくさんの人が一生けん命働いて、はらってくれた税金が使われているとわかったことで、「大切にしよう」と強く思うようになりました。自分の物と強く思うようになりました。自分の物と同じように大切にしたり、感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。そして、大人になったら、社会の一員として税金をきちんとはらい、みんなが幸せに暮らせる社会を作れるようにしたいです。

特選



「税金と付き合い生活」

脇町小学校 6年 蓮池 惺名

私は今まで税金には良いイメージがありませんでした。むしろ悪いイメージが強かったです。買い物をすると消費税を払わないといけなくて、それはどこかにお金をとられているように感じていたからです。私はなぜ税金をとらないといけないんだろうと不満を持っていました。

でもその不満は租税教室で税金について学んだあと、一瞬でなくなりました。それは税金を払わないと生活が苦しくなるとわかったからです。

たとえば、税金がなくなると日々の生活でのお金がおのずごく高くなってしまったり、もし万が一火事が起こってしまっても火を消すのに、ばく大なお金が必要になってしまいます。今までは私たちが使っている教科書は無しやうでいただいていたのに、それもお金がかかるようになります。図書館でもお金を払わないといけなくなるなんて不便です。道路にある信号機もなくなり、危険な生活を送るようになってしまいます。税金のない世界を想像しただけでとてもぞっとしました。

私は税金を払うことで今の生活を保つことができると思うと税金を払うことがそれほどいやではなくなりました。

また、税金が私たちの身近なものに使われているとわかり感謝しました。私たち学生に使われている教育費、病気になってしまった時の医りょう費、年をとって働けない年になった時の年金など税金はみんな一人一人に、しっかりかえてきているのです。税金はけっして無くなってはいけないものだと思います。

そのことを忘れずに私たちは税金と付き合いなければなりません。税金を払っていることに不満を持たず、しっかり税金を納めていける人になりたいと思いました。